

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

田原市地域公共交通会議 (田原市)

平成19年3月23日設置

令和6年3月 第3次田原市地域公共交通戦略計画 (地域公共交通計画) 策定
(計画期間：令和6年4月～令和16年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業

- ・ 地域間幹線系統確保維持国庫補助金
- ・ 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

1. 【Plan】 協議会等が目指す地域公共交通の姿

(1) 田原市の概要

- ・人口59,360人※令和2年国勢調査
- ・渥美半島に位置し、市町村合併で田原・赤羽根・福江の市街地と集落地域で構成
- ・地理的・産業的条件から、マイカー依存度が極めて高い

(2) 第3次田原市地域公共交通戦略計画（地域公共交通計画）令和6年3月

将来像：だれもが安心して移動できるまち

取組姿勢：協働で“つくり・守り・育てる”公共交通網

全体目標：まちづくりの基盤となる公共交通の確立

計画期間：令和6年度から令和15年度まで

定量的目標：市内における公共交通利用者数の維持（148万人）

：ぐるりんバス1便当たり乗車人数5.0人以上、ぐるりんミニバス3.0人以上



※補助対象路線

- ・地域間幹線系統補助：豊鉄バス伊良湖本線・支線
- ・フィーダー系統補助：コミュニティ乗合交通（田原市ぐるりんバス）

2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
★コミュニティバスの運行	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年10月に路線変更及び廃止（一部統合） 	前年比較8%増 （99,258人⇒100,998人）	<ul style="list-style-type: none"> 地域等と連携した利用促進等の結果、路線変更以降最大の利用者数となった。
路線カルテの作成及び地域との協議	<ul style="list-style-type: none"> カルテ作成 沿線校区への情報提供（表浜線利用推進協議会の開催等） 	校区主体のコミバスの利用促進等の実施 ＊年間約24件/沿線校区	<ul style="list-style-type: none"> 校区に対しコミバス利用状況を報告 地域も自分事として考え、地域主体で利用促進等が実施された。
運転免許証自主返納支援事業の継続実施 （H29～）	<ul style="list-style-type: none"> 免許返納者へコミバス1年間無料乗車券等の支援実施 	自主返納支援事業申請者数前年比較32%増 （89人⇒118人） コミバス無料乗車券利用者数前年比較19%増 （1,697人⇒2,031人）	<ul style="list-style-type: none"> 前年度より返納者数が増加しており、コミバス無料乗車券の利用も増加しているため、自家用車から公共交通への転換に一定の効果があった。
高校生バス通学用定期券購入助成の継続実施 （R1～）	<ul style="list-style-type: none"> 市内在住豊鉄バス利用高校通学者へ通学定期購入費3割助成 	3割助成申請者数前年比較17%減 （588人⇒500人）	<ul style="list-style-type: none"> 高校生年代の減少 田原地域から福江高校へ通学減少 利用者数も減少 助成割合について検討中
情報発信の継続	<ul style="list-style-type: none"> ガイドブックの作成・配布 多言語版バス乗り方情報作成（中国語、インドネシア語、クメール語追加作成）全5か国 	ガイドブックの全戸配布（25,000部） 多言語広報への掲示、HP掲載、外国人向けバスの乗り方教室での配布	<ul style="list-style-type: none"> ガイドブックを全戸配布することで、公共交通を周知・PRできた。 バスの乗り方を多言語化することで市在住外国人等を中心に乗り方を周知できた。



[コミバス無料乗車券]



[通学の様子]



[ガイドブック]

2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
市民まつり、エコフェスタでのブース出展 (R5.10.30、R6.7.28)	<ul style="list-style-type: none"> 交通事業者・まちづくり会社と共同したブース出展の実施 オリジナル缶バッチの配布 はたらくクルマ集まれ実施 	ブース来場者計約700名 (前年度約500名)	<ul style="list-style-type: none"> 両イベントとも、多くの方が来場した中で多くの方に対して公共交通をPRできた。 特に市民まつりではバスに加え、消防車やパトカー等を集めたイベントを実施し、未就学児やその保護者に対してPRができた。
豊橋鉄道渥美線、豊鉄バスと連携したイベントの実施 (R6.7.11、R6.8.3、R6.8.24)	<ul style="list-style-type: none"> 外国人向けバスの乗り方教室 目指せ！バス博士 目指せ！渥美線博士 	申込者計約360名 (前年度約450名)	<ul style="list-style-type: none"> 申込期限を短縮したこともあり、申込者数は減少 国際交流協会、事業者と連携してバス沿線在住の外国人に対して乗り方教室を実施 関係機関と連携し、継続実施予定  <p>「バス博士」</p>
ラッピング車両の導入周知活動の実施(R1～)	<ul style="list-style-type: none"> 車両にラッピングを実施 オリジナルペーパークラフト作成・配布 	各種イベントでオリジナルペーパークラフト配布 (累計約400枚) (前年度約500枚)	<ul style="list-style-type: none"> 各種イベント参加時にペーパークラフトを配布し、未就学児を中心にぐるりんバスへの興味を醸成  <p>「ラッピング車両」</p>
MaaSアプリを活用した取組 (R5.10.7～12.3)	<ul style="list-style-type: none"> 博物館企画展でのMaaSアプリを活用した企画きっぷの販売 	期間内の販売実績87枚 (前年度比約1.7倍)	<ul style="list-style-type: none"> エリア版MaaSアプリ「CentX」を活用し、企画展のモバイルチケットを造成 今後も関係機関と連携し、継続実施予定 

2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
<p><u>伊良湖支線の観光地への延伸検討</u> (R6.6～)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業者と共同で観光需要の高い菜の花ガーデンへの延伸を検討 	<p>令和7年2月より、菜の花まつり開催期間の土日祝限定で路線延伸を実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 需要の高い観光地へ延伸することで利用者の増加が期待できる。  <p>[伊良湖支線の延伸]</p>
<p><u>豊鉄バスサイクルラックバス実証実験の実施検討</u> (R6.6～)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業者と共同で豊鉄バス車両へ自転車用ラックを取り付ける実証実験の実施を検討 	<p>令和7年1月よりサイクルラックバス運行の実証実験を実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 豊橋鉄道渥美線のサイクリストレイン・伊勢湾フェリーと併せてサイクリストの利便性を向上し、公共交通機関への乗車誘導を図る。 観光地への延伸と併せて利用者の増加に期待できる。
<p>東三河地区で連携した取組（東三河地域公共交通活性化協議会） (R6.7.21～11.30)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 50円バスの実施 公共交通オリジナルツアー、公共交通利用促進ポスター&川柳コンテスト実施 	<p>前年度比、8月のぐるりんバス利用者17%増 (8,335人⇒9,754人) 応募者数（総数） ツアー 16名 ポスター 180名 川柳 410名</p>	<ul style="list-style-type: none"> 8月（夏休み）のイベント期間、バス利用者数は増加しており、一定の効果があった。 田原市内からも作品への応募が多数あり、公共交通のPRができた。 
<p><u>コミュニティバスへのQRコード決裁の導入</u> (R6.4～)</p>	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバス全線にQRコード決裁(PayPay)を導入 	<p>利用人数実績 1,776人 (R6.4～R6.9)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 特に臨海部工業の関係者からの利用が多い。 利用者の利便性向上に寄与している。  <p>[車内掲示]</p>
<p>ぐるりんミニバス中山線のダイヤ変更の実施 (R5.12.1～) <u>中山線のデマンド運行の検討</u> (R6.6～)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年12月にダイヤ変更 交通会議の分科会を設け、中山線のデマンド化について協議 	<ul style="list-style-type: none"> 前年比較7%減 (5,629人⇒5,236人) 令和7年10月よりデマンド運行の実証実験を開始予定 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の多い沿線の施設から要望を受けダイヤの変更を実施したが、全体では利用者が減少した。 デマンド化により運行効率を維持しつつ、カバーできる範囲を拡大し、地域の需要に応えることが可能となるものと予想

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

(1) 自己評価を行った会議

- ・令和6年12月27日（金） 田原市地域公共交通会議

(2) 市内公共交通利用者実績に対する評価

目標	目標値	実績値達成状況（※）					目標達成状況
		H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
市内公共交通利用者数の維持	148.0万人	160.2万人	107.4万人	115.7万人	126.4万人	140.2万人	未達成
内訳	目標値 (人)	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
鉄道（渥美線・市内4駅）	659,000	732,365	514,457	557,108	615,367	688,776	達成
路線バス（伊良湖本線）	232,000	258,213	237,480	218,816	167,344	191,444	未達成
路線バス（伊良湖支線）	52,000	57,973	48,861	40,554	34,370	45,209	未達成
フェリー・高速船	362,000	362,871	139,101	194,624	278,160	300,194	未達成
コミュニティバス	89,000	95,930	78,297	89,003	99,258	100,998	達成
タクシー	86,000	95,602	56,409	57,475	69,381	75,764	未達成
計	1,480,000	1,602,954	1,074,605	1,157,580	1,263,880	1,402,385	

※対象期間は、第3次田原市地域公共交通戦略計画の目標に合わせ、4月から翌年3月末までとしている。

◆考察

- ・鉄道、コミュニティバスは目標達成。その他の交通モードは昨年度より増加したが目標は未達成。
- ・コミュニティバス以外は、コロナ禍以前の平成31年度まで戻り切っていない。
- ・伊良湖支線の一日当たりの輸送量実績は令和4年に15.2人まで落ち込んだが、令和5年度は19.4人まで増加した。
- ・特に高齢者の通院や買い物（外国人含む）等の定期外利用者が増加した。
- ・今後の人口減少に伴う利用者減少が懸念される。

3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

(3) コミュニティバスに関する評価

区分	目標	実績値（※）					達成状況	利用者数（R5）	便数（R5）	
		H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度				
ぐるりんバス	市街地線	1便当たり乗車人者数を5.0人以上にする。	4.1人/便	2.9人/便	3.4人/便	4.3人/便	5.2人/便	達成	24,868人	4,758便
	童浦線		7.6人/便	5.6人/便	7.0人/便	7.9人/便	7.2人/便	達成	34,935人	4,864便
	サンパル線		3.6人/便	4.0人/便	4.4人/便	4.4人/便	4.1人/便	未達成	22,593人	5,542便
ぐるりんミニバス	表浜線	1便当たり乗車人者数を3.0人以上にする。	2.9人/便	2.5人/便	2.5人/便	2.7人/便	3.8人/便	達成	13,096人	3,660便
	中山線		2.7人/便	2.5人/便	2.3人/便	2.2人/便	2.1人/便	未達成	5,506人	2,562便

※対象期間は、田原市生活交通確保維持改善計画（地域公共交通計画別紙）の期間に合わせて4月から3月末までとしている。

◆考察

- ・路線全体 : 令和元年の路線再編以降、利用者数は最大となった。
- ・市街地線 : 4月以降、臨海企業従業員が市街地線沿線の寮に移転したことにより増加。
- ・童浦線 : 臨海企業従業員が一部移転したが、利用者数は高い状況。
- ・サンパル線 : 中学生の通学利用により、一定数の利用者数確保しているが、目標まで達していない。
8月は小中学校夏季休暇の影響で利用者は減少。
- ・表浜線 : 高齢者の通院や買い物利用者が増加したことにより、利用者は増加傾向となり目標達成。
- ・中山線 : 12月に周辺住民の要望を受けてダイヤを改正したが、利用者数は減少。
路線運行でカバーができる範囲に限られ、地域の潜在需要を賄い切れていないと考えられる。
デマンド運行により、運行効率を維持しつつ、カバーできる範囲を拡大し、地域の需要に応えることが可能となるものと予想。

(4) 持続可能な公共交通に関する評価

目標	目標値	実績値達成状況（※）					目標達成状況
		H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
田原市ぐるりんバス収支率	10%以上	10.7%	9.3%	10.6%	10.5%	10.7%	達成
路線バス及びぐるりんバスに係る市の財政負担額	185,000千円	156,176千円	163,544千円	168,246千円	191,908千円	203,190千円	未達成

※対象期間は、第3次田原市地域公共交通戦略計画の目標に合わせ、4月から翌年3月末までとしている。

◆考察

- ・田原市ぐるりんバス収支率については、ぐるりんバスの利用者が路線再編以降最大となったこともあり、目標値を達成。
- ・路線バス及びぐるりんバスに係る市の財政負担額については、ぐるりんバス運行委託料、路線バス確保維持改善補助金の増額により目標値未達成。
- ・人件費や燃料費の高騰等により委託料や補助金が増額している。

4. 【Act】 計画目標の達成に向けた今後の取組方針 の作成

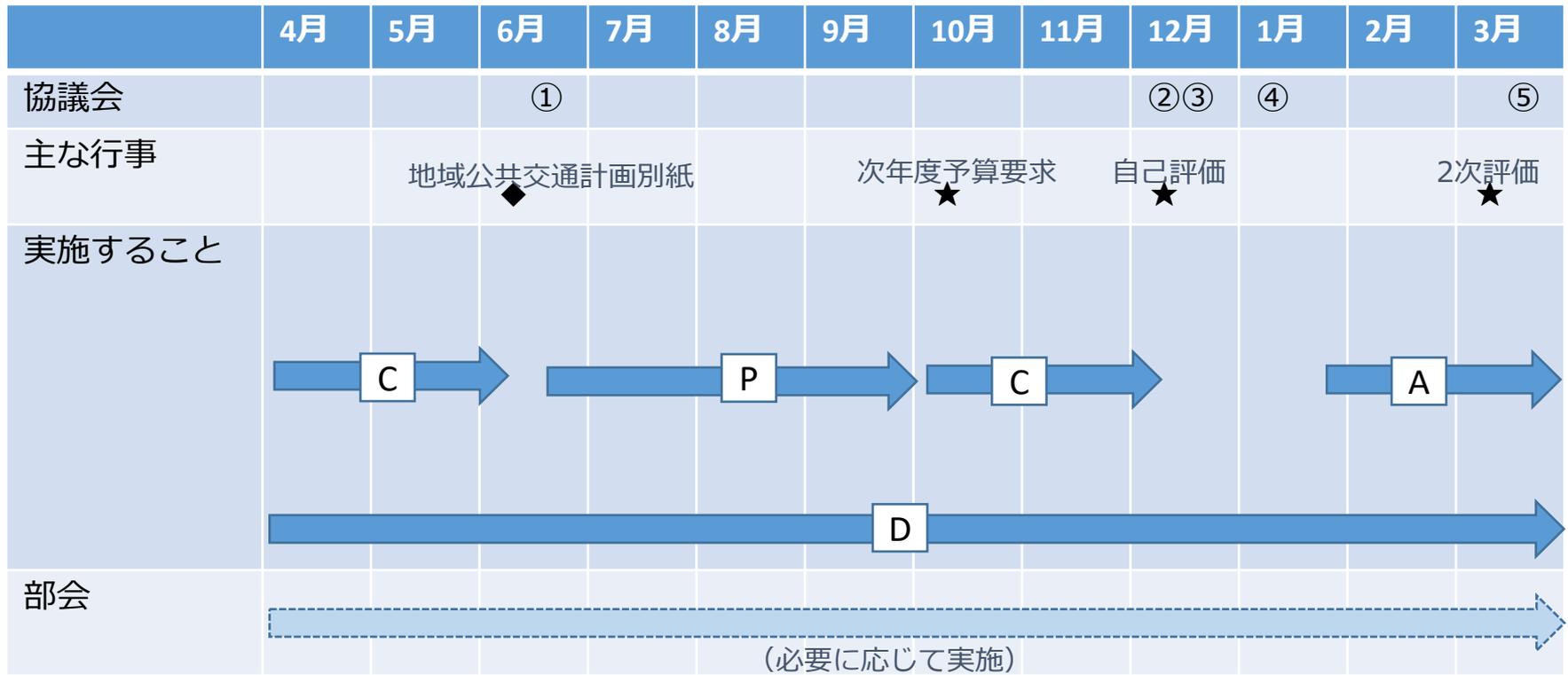
計画目標の 現在の到達点	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> 市内公共交通利用者数、目標未達成 ※目標値：148.0万人 実績値：140.2万人 達成率約94% 	<ul style="list-style-type: none"> 運転免許証自主返納事業、高校生通学バス定期券購入助成を継続実施。高校生通学バス定期券購入助成については、助成割合の変更を検討。 東三河地域と連携した広域的な利用促進を継続。 現在の生活様式に対応した公共交通の在り方の検討。 交通系 I Cカードの導入効果を発揮するため、利用方法等の周知を実施。 伊良湖支線の観光地（菜の花ガーデン）への延伸やサイクルラックバスの実証実験等、引き続き路線バスの運行について運行事業者及び沿線地域と連携して利用促進を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ぐるりんバス 1 便当たり乗車数 目標達成：市街地線、童浦線、表浜線 目標未達成：サテライト線、中山線 * 利用者数は令和元年の再編以降最大の利用者数を達成 	<ul style="list-style-type: none"> 地域版MaaSアプリ等と連携し、DX等の技術を活用した利用促進の継続。 QR決済の導入効果を発揮するため、利用方法等の周知を実施。 引き続き関係者と連携した利用促進策等を実施するとともに、官民一体となった「守り育てる」公共交通利用促進事業を検討。 路線カルテを用いて路線ごとの利用実態を検証し、地域と利用促進策を検討し実施。 バス停ごとに利用者の分析を行い、変更が必要な場合は、利用実態に合わせて随時ダイヤ・ルート等の変更を実施。 中山線についてデマンド運行による実証運行を予定。
<ul style="list-style-type: none"> ぐるりんバス収支率 目標達成 路線バス及びぐるりんバスに係る市の財政負担額 目標未達成 	<ul style="list-style-type: none"> 地域交通を維持するために必要な市の財政負担額について再検討を行う。 上記及び収支率は目標を達成したことを踏まえ、目標値の再設定を検討。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間幹線系統である伊良湖支線（福祉C堀切）については、輸送量等の推移を注視し、引き続き、検証や利用促進に向けた施策が実施されることを期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線地域への利用促進等により、低迷していた輸送量は徐々に回復傾向にある。（令和4年度15.2、令和5年度19.4、令和6年度20.2） 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間限定の観光地への延伸やサイクルラックバスの実証実験、地域との情報共有等、路線維持の取組を実施する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、路線カルテによる利用状況等の検証を行い、地域や関係者との情報共有や利用促進、利便性向上に向けた施策につなげていくことを期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・路線カルテによる利用状況等の検証を継続し、地域や関係者と協力した利用促進を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き路線カルテを用いて地域と情報共有し、地域と協力しながら利用促進策を検討し実施する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・現在改定作業中の公共交通計画も踏まえ、地域や交通事業者をはじめ多様な主体と連携し、地域の公共交通の確保維持や利便性向上につながる施策に取り組むことを期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次田原市地域公共交通戦略計画に掲げる重点施策（ぐるりんバス中山線のデマンド運行検討、夜間のタクシー輸送量不足の解消）について、分科会を設置し、関係者や地域住民と意見交換を実施しながら公共交通の確保維持について検討を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者や地域住民との意見交換を継続し、地域に適した運行方式へ変更を実施する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、関係者と連携し、幅広い層への利用促進等に取り組むことを期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や親子連れ、外国人等、多様な世代に向けた利用促進策を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、交通事業者や地域等と協力して利用促進策を実施する。
前々回	<ul style="list-style-type: none"> ・路線カルテを用いて路線ごとの利用実態を検証し、地域住民とともに利用促進策を検討していただくことを期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・路線カルテによる利用状況等の検証を継続し、地域や関係者と協力した利用促進を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き路線カルテを用いて地域と情報共有し、地域と協力しながら利用促進策を検討し実施する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間幹線系統である伊良湖支線（福祉C堀切）について、輸送量や平均乗車密度の低下が見られますので、通学需要についても意識した取組を進められるよう引き続き利用促進を図ることを期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線地域への利用促進等により、低迷していた輸送量は徐々に回復傾向にある。（令和4年度15.2、令和5年度19.4、令和6年度20.2） 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間限定の観光地への延伸やサイクルラックバスの実証実験、地域との連携強化等、路線維持の取組を実施する。

※前回：令和6年3月21日、前々回：令和5年3月10日

6.計画・評価の推進体制

<年間単位の進捗管理、評価スケジュール>



【協議会の実施状況】

○第64回協議会④ 令和6年1月17日

主な議題：令和5年度地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価（案）について [承認]

○第65回協議会⑤ 令和6年3月25日

主な議題：令和5年度事業計画・収支予算（案）について [承認]

○第66回協議会① 令和6年6月14日

主な議題：田原市地域公共交通計画別紙（案）について [本計画の承認]

○第67回協議会② 令和6年12月5日（書面会議）

主な議題：ぐるりんバス市街地線のバス停名称・設置場所および運行ダイヤの変更について [承認]

○第68回協議会③ 令和6年12月27日

主な議題：令和6年度地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価（案）について [承認]

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年12月27日

協議会名: 田原市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持事業/地域内リーダー系統

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
豊鉄ミデイ(株)	ぐるりんバス市街地線 (田原駅～田原駅)	・QRコード決済(PayPay)の導入。 ・路線カルテの作成にて地域と情報共有した。 ・地域の商工団体と連携した利用促進に取り組んだ。 ・ぐるりんバス「海号」「花号」ペーパークラフトを配信。	A ・計画どおり適切に実施した。	【※評価基準は、目標値を超えていればA評価、目標値の50%以上がB評価、目標値の50%未満でC評価とする】 A ・1便当たり利用者数 5.2人で目標値を達成した。 (目標5.0人、昨年度4.9人) ・4月以降、臨海企業従業員が市街地線沿線の寮に移転したことにより増加。	・地域版MaaSアプリ等と連携し、DX等の技術を活用した利用促進の継続 ・QR決済の導入による利便性の向上(※導入済み) ・引き続き関係機関と連携した利用促進策等を実施し、官民一体となった「守り育てる」公共交通利用促進事業を検討。 ・路線カルテを用いて路線ごとの利用実態を検証し、地域と利用促進策を検討し実施 ・バス停ごとに利用者の分析を行い、利用実態に合わせて、変更が必要な場合は随時ダイヤ・ルート等の変更を実施 ・移動の減少傾向や性格等を分析 ・目標:1便当りの利用者数 市街地線・童浦線・サンバルク線:5人 表浜線:3人
	ぐるりんバス童浦線 (片西南～渥美病院)	・QRコード決済(PayPay)の導入。 ・路線カルテの作成にて地域と情報共有した。 ・地域の商工団体と連携した利用促進に取り組んだ。 ・ぐるりんバス「臨海号」ペーパークラフトを配信。		A ・1便当たり利用者数 7.2人で目標値を達成した。 (目標5.0人、昨年度7.4人) ・臨海企業従業員が一部移転したが、利用者数は高い状況。	
	ぐるりんバスサンテバルク線 (芦集会所～渥美病院)	・QRコード決済(PayPay)の導入。 ・路線カルテの作成や校区公共交通利用推進協議会で地域と情報共有した。 ・地域の商工団体と連携した利用促進に取り組んだ。 ・ぐるりんバス「農業号」ペーパークラフトを配信。 ・収穫祭にてサンテバルク線乗車証明書と引き換えに缶バッジを配布。		B ・1便当たり利用者数 4.1人で目標値を達成できなかった。 (目標5.0人、昨年度4.4人) ・中学生の通学利用により、一定数の利用者数確保しているが、目標まで達していない。8月は小中学校夏季休暇の影響で利用者が減少。	
渥美交通(株)	ぐるりんミニバス表浜線 (図書館～図書館)	・QRコード決済(PayPay)の導入。 ・路線カルテの作成にて運行事業者及び地域と情報共有した。 ・地域の商工団体と連携した利用促進に取り組んだ。	A ・1便当たり利用者数 3.8人で目標を達成した。 (目標3.0人、昨年度3.3人) ・高齢者の通院や買い物利用者が増加したことにより、目標を達成した。		

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年12月27日

協議会名:	田原市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業／地域内フィーダー系統
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>[将来像]だれもが安心して移動できるまち</p> <p>[取組姿勢]協働で“つくり・守り・育てる”公共交通網</p> <p>[全体目標]まちづくりの基盤となる公共交通の確立</p> <p>【実現目標】</p> <ul style="list-style-type: none">○多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現 ⇒移動の安全性の向上、移動手段の選択肢拡大を目指す。○まちづくりを促進し、まちの魅力を高める公共交通の実現 ⇒定住・交流人口の拡大、都市形成の推進・都市機能の維持向上、環境共生・福祉など地域課題の解消、観光・商業など地域活力の向上を目指す。○市民の幸福に貢献する公共交通の実現 ⇒潤い豊かな暮らし方の実現を目指す。 <p>【公共交通網】</p> <ul style="list-style-type: none">○「幹線乗合交通」を基軸とし、その範囲外を「コミュニティ乗合交通」「有償パーソナル交通」「政策交通」が順次補完(役割分担・連携)し、更にこれらを企業送迎・助け合い活動が補うことで市民等の移動を確保する。